

2. 洗口の流れについて

顆粒タイプ、溶液タイプ（ポーションおよびボトル）のフッ化物洗口の流れをまとめます。
この流れは参考であり、各学校等の実情に応じたより良い方法で実施してください。
次の項目で計算する経費は下記の方法で実施した場合を想定します。

	顆粒タイプ	溶液タイプ（900ppm）	
		ポーション 10 ml	ボトル 500 ml
1	顆粒を水道水で溶解する		
2	分注ポンプに分ける		
3	紙コップに洗口液を入れる	ポーション（洗口液）を配布する	ボトルにポンプを装着し、紙コップに洗口液を入れる
4	洗口する	洗口する	洗口する
5	洗口液を紙コップに吐き出す	洗口液をポーション容器に吐き出す	洗口液を紙コップに吐き出す
6	紙コップにティッシュペーパーを入れ洗口液を吸わせる	ポーション容器にティッシュペーパーを入れ洗口液を吸わせる	紙コップにティッシュペーパーを入れ洗口液を吸わせる
7	紙コップを回収する（ゴミ袋にまとめる）	ポーション容器を回収する（ゴミ袋にまとめる）	紙コップを回収する（ゴミ袋にまとめる）
8	残った洗口液を廃棄する		

3. 経費について

2. 洗口の流れるの方法で実施する、初年度経費、2年目以降の経費について計算します。(すべて税別)
 消耗品等は青森県フッ化物洗口マニュアル 16 ページ三沢市の予算を参考にします。

長期休暇の実施はなしと仮定し、1年間を11カ月で計算します。

※全て参考価格です。購入先等により経費は変動します。

【フッ化物洗口剤 900ppm 10ml 週1回法 50人分1年間の場合】 (円/税別)

		ミラノール顆粒 11%		オラブリス洗口液 0.2%	
		集団用 7.2g	ボトル 500g	ポーション 10ml	ボトル 500ml
洗口液	1回当たりの価格	2.9	2.1	73	28
	50名分の1年間の洗口液価格 1回当たりの価格×50名×月4回×11カ月	6,380	4,620	160,600	61,600
初年度準備 備品	ポリタンク	2,000	2,000	—	—
	ディスペンサー付きボトル (分注ポンプ)	1,200	1,200	—	—
	ボトル用専用ポンプ (ボトル取り付け)	—	—	—	200
	教室運搬用カゴ	100	100	100	100
	(初年度準備 備品) 合計	3,300	3,300	100	300
消耗品	紙コップ @5円×50名×月4回×11カ月	11,000	11,000	—	11,000
	レジ袋 @5円×月4回×11カ月	220	220	220	220
	ティッシュペーパー @80円×18箱 ※三沢市予算参考 20名で年間7箱、10名 あたり3.5箱 50名だと17.5箱→18箱	1,440	1,440	1,440	1,440
	消毒液(ピューラックス)@600円×1回	600	600	—	—
	(消耗品) 合計	13,260	13,260	1,660	12,660

初年度経費 総計	22,940	21,180	162,360	74,560
一人当たり年間単価【初年度】	458.8	423.6	3,247.2	1,491.2
一人当たり年間単価【2年目以降】	392.8	357.6	3,245.2	1,485.2

● 予算の参考情報③

三沢市では、1クラス(20名)の初年度経費を次のように試算しています。

(上記②に記載の洗口液調製・運搬費は除く)

No.	品目	個数	積算	金額
1	ポリタンク (薬局運搬用)	1本	—	2,000円
2	ディスペンサー付きボトル	1本	—	1,200円
3	買い物カゴ	1個	—	110円
4	紙コップ	20名×月4回×11ヶ月=880個	@5円×880個	4,400円
5	レジ袋LL	1枚×月4回×11ヶ月=44枚	@5円×44枚	220円
6	ティッシュペーパー	7箱	@80円×7箱	560円
7	ミラノール顆粒 (洗口剤)	1本 (500g)	—	7,700円
8	ピューラックス (消毒用)	1本	—	660円
計				16,850円

1人あたり初年度経費 16,850円÷20人=約850円

4. 顆粒タイプ、溶液タイプのメリット・デメリットについて

【メリット】

顆粒タイプ	溶液タイプ	
	ポーション	ボトル
安価である	調整・溶解の必要がなくそのまま使用できる	調整・溶解の必要がなくそのまま使用できる
省スペースに保管できる	分注の必要がない	分注の必要がない
溶解濃度を簡単に調整できる	残液がない	残液がない
実施人数、年齢ごとに対応できる分包の種類が豊富 (ミラノール顆粒 11%の場合)	タンク、分注ポンプ等容器の洗浄、消毒の必要がない	タンク、分注ポンプ等容器の洗浄、消毒の必要がない
	紙コップ（プラスチックコップ）を使わなくてよい	

【デメリット】

顆粒タイプ	溶液タイプ	
	ポーション	ボトル
調整・溶解が必要	高価である	高価である
タンクで洗口液を作った場合さらに分注ボトルに分ける必要がある	濃度が 900ppm のみである	濃度が 900ppm のみである
溶解した洗口液の残液は保存できない	保管場所の確保が必要	保管場所の確保が必要
タンク、分注ポンプの洗浄、消毒が必要	低年齢等はふたを開けることが難しい場合がある	ボトルは再利用できない
	ごみの分別が必要（ポーションはプラスチック）	